

防災備蓄ゼリー 500食を県に贈呈

宮城の製造会社

備蓄用食品の製造企業「ワンテーブル」（宮城県多賀城市）の富田智之社長が県庁で服部誠太郎知事に防災備蓄ゼリー「LIFE STOCK」約5千食分の目録を手渡した。乳幼児から高齢者、宗教上の理由で食事に制約のある外国人まで誰にでも提供できるといふ。県は災害時に福祉避難所となる児童福祉施設な

どに配布する。

ワンテーブルは2011年の東日本大震災を機に、避難所で支給される食糧に着目。乾パンやカップ麺、おにぎりといった従来の非常食が続けば、栄養に偏りがあつたり、飲料水が必要としたりしたことから、簡

単に摂取できるゼリーを19年に発売した。常温で約5年半、保存できるといふ。

8日に訪れた富田社長は「かさばらないので、保存スペースやごみの問題もクリアしている。ぜひ活用してほしい」と話し、服部知事は「いざという時に備えたい」と謝意を述べた。

（河合仁志）



服部知事（右）に目録を手渡したワンテーブルの富田社長